

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和元年度第10回）議事概要

日 時：令和2年1月31日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

I. 前回（令和元年度第9回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・前回議事録署名人を松本理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 寄付金運営委員会の設置（案）について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・このような形で委員会を設置し、取扱規程を制定することはよいことであると考えている。実際に現場を見てきて、寄付に関連する論点を挙げると、第3条の「寄付受入れの条件」において、利益相反の部分も含めて、より受入れの基礎体力をつけていくといった状況なので、委員会を作り、受入れ条件を絞る方法はよいスタートであると思う。負担の中で異なったものとして、アメリカの大学等では常識になっているが、例えば、建物に寄付者の名前をつけるというインセンティブがある。そのようなものについてもどのように受け入れていくかが大切である。外国や企業の寄付をどう取り扱うか。しっかりと契約を交わし、寄付金の使途を明らかにし、関係を整理することは、海外からの寄付であれ、企業からの寄付であれ、国の政策との関係もあるが、受け入れについてはもう一歩前に出る検討をしていただきたい。
- ・寄付者に対して「日々歩」をお送りするとのことだが、寄付については口コミで様々な方に伝わっていくので、過去の寄付者の方にもお送りするとよいのではないかと。

III. 報告事項

1. 令和2年度事業計画の作成について

資料に沿って報告された。

2. 令和2年度予算について

資料に沿って報告された。

3. 目的積立金について

資料に沿って報告された。

4. グラクソ・スミスクラインと国立がん研究センターパートナーシップ契約の締結について

資料に沿って報告された。

5. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・全ゲノム解析について、ゲノムの数と症例数はどのように理解したらよいか教えていただきたい。
- ・がんゲノム解析の場合は、がんの部位と正常な部位の2種類があり、また単一遺伝子性疾患の場合では、本人と家族等の数が含まれることになるため、症例数が多くなっている。
- ・診療報酬改定について、2月中には数字が出てくるという認識でよいか。
- ・2月中に議論が行われると認識している。告示はその後に出てくるので、2月中には出てこないのではないかと。動きについて注視していく必要がある。
- ・診療報酬改定の部分において、がん関連のリハビリテーションについて、議論に上がった背景等ご存知のことがあれば、教えていただきたい。
- ・早い段階で治療中にリハビリに関与すれば、早期に退院することができ、メリットがあるので議論に上がったと認識している。
- ・通常の手術も含めて、STによる声帯などの特殊な部分のリハビリにもかなり力を入れて行っている。

6. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・第7回患者と家族との意見交換会において、J-SUPPORTによる支持療法の研究成果についての記載があるが、研究成果については確認することができるのか。
- ・基本的にはJ-SUPPORTのホームページで確認することができる。
- ・寄付金運営委員会を設置したのは、どのようなことがインセンティブとなって設置に至ったのか。
- ・説明をしっかりと行うことによって寄付者に情報を発信し、寄付を呼び込めると期待している。
- ・大学法人では、不動産等の現物の寄付はどこかのタイミングで資金化するというものなのか、資産そのものを活用していくのか。

- ・様々なケースがあると思うが、土地をいただいた場合、そのまま活用できないことがある。

7. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

8. 12月分月次決算等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・短絡的に議論をしてしまうと、中長期的ながん研究センターの発展や公共的な役割等を阻害してしまうので、目標数値を決定する際に分かりやすい説明をしていただきたい。